

代表者会議【資料 2－2】

茅ヶ崎市自立支援協議会 報告書

件 名	令和 6 年度第 1 回くらしの基盤強化部会
日 時	令和 6 年 6 月 1 3 日（木） 1 0 時～ 1 2 時
場 所	茅ヶ崎市社会福祉協議会 2 階 B 会議室
事 務 局	茅ヶ崎市社会福祉協議会 障害者生活支援センター
出 席 者	<p>■太田 英次郎（茅ヶ崎市障害者施設連絡会）</p> <p>■鈴木 大雅（当事者）</p> <p>□小野田 潤（茅ヶ崎・寒川居宅介護事業所連絡会）</p> <p>■加藤 郁子（茅ヶ崎市相談支援事業所連絡会）</p> <p>■高田 陽子（茅ヶ崎市民生委員児童委員協議会）</p> <p>■牧野 浩子（茅ヶ崎市肢体不自由児者父母の会）</p> <p>■瀧井 正子（茅ヶ崎手をつなぐ育成会）</p> <p>■長谷川 栄子（地域包括支援センター）</p> <p>■市村 碧（茅ヶ崎市障がい福祉課）</p> <p>■瀬川（オブザーバー：基幹相談支援センターナル）</p> <p>■柴田（オブザーバー：茅ヶ崎市自立支援協議会会長）</p> <p>■池元（オブザーバー：茅ヶ崎市障がい福祉課）</p> <p>■田中 有希子（事務局：障害者生活支援センター）</p> <p>■栢沼 玲也（事務局：障害者生活支援センター）</p> <p>■和田 由美子（事務局：障害者生活支援センター）</p> <p style="text-align: right;">■出席 □欠席</p>
議 題	<p>1. 今の取り組みについて</p> <p>2. 資料「事例から見えた重要な支援ポイント」について（意見交換）</p> <p>3. その他（情報提供など）</p>
検 討 内 容	<p>令和 6 年度最初の部会。部会員の自己紹介の後、太田部会長の司会により議事は進行された。</p> <p>1. 今任期の取り組みについて</p> <p>2. 資料「事例から見えた重要な支援ポイント」について</p> <p style="text-align: right;">} 合わせて</p> <p>事務局の栢沼より活動予定表にもとづき説明。2 期目となる今期ではこれまでに取り組んだ部会テーマに関連する事例の検討・分析結果と、親亡き後・8050 問題に対して必要な支援体制についての提言を「部会協議報告書」としてまとめ、自立支援協議会代表者会議・地域生活拠点整備進化プロジェクト・障害者保健福祉計画推進委員会などに対し報告するところをゴールに設定。任期としては 2 年だが、プロジェクトにおける事業の検討に本部会の協議内容を反映いただくことを考えると、年度内には報告書の完成を目指したいと考えている。部会協議報告書(案)についても事務局にて作成。報告書の作りも含めご意見いただきたい。</p>

～意見交換～

- ・部会協議報告書のまとめ方について。事例ページにある「事例から見えた重要な支援ポイント」に対して地域生活拠点整備事業の5機能分類に振り分けられているが、その意図は何か。
- 事例検討をした際のアンケートに、各事例の要素を地域生活拠点整備事業の5機能に分類する項目があったが、その中で多くチェックがついた項目から会議での意見を参考に各事例3つずつ「支援ポイント」を抽出している。地域生活拠点整備進化プロジェクトでの検討において、それぞれの課題がどの分類におけるものなのかが分かりやすい方が取り入れやすいかと考えこのようにしている。
- ・地域生活拠点整備事業における分類の記載が唐突なので、事例のページの前に、この事業についての説明があると良い。また、地域生活拠点整備進化プロジェクトと取り組みのすみ分けは。
- 地域生活支援拠点整備事業は、親亡き後問題に対し各地域の実情に合わせ体制を整備する事業。3月より協議会内に立ち上がっている地域生活支援拠点整備進化プロジェクトは、その事業を具体的に考える会議となっている。我々は事業を考える部会ではなく、テーマに対して必要な取り組みを協議し事業検討の材料となる提言をあげる場としてすみ分けを考えている。
- ・協議会での議論が、具体的な政策に反映されにくいという課題を感じている。この部会での協議報告も、課題を抽出しただけでは支援に反映されない。政策提言といったらおこがましいが、そこまで踏み込んだ内容にすべきか。
- ・現在の案では事例ページについて「(3)本事例から見えた重要な支援ポイント」までとなっているが、(4)をつけ、その課題を解決するための取り組み案まで入れられると良いのではないか。その案の実現についてはとにかく、代わりに現状について何ができるのかと踏み込んだ議論に繋げることができる。
- ・具体的な取り組み案を入れることについては賛成。さらに、こういうことをやってくださいだけではなく、我々側もこういうことが手伝えます、一緒にやりましょうということで記載できると良い。
- ・自立支援協議会から少し離れていて久々に戻ってきたが、取り組んでいることにあまり変化は感じられなかった。具体性や実効性があるものをある程度考えて提言していかないとそれに対する反応も返ってきにくいのかなと思う。各事業所や業務上の課題も踏まえて考える必要がある。
- ・重要な支援ポイントの整理表も報告書には入れた方が良い。
- ・重要な支援ポイントについて、もう少し詳しく「なぜそれが重要なのか」が書かれると良いのではないか。これだけではわかりづらい感じがする。
- ・「入口支援の強化」に対しては、「なんでも相談室を設ける」といったいろんなアイデアを皆で出してはいかがだろうか。
- ・「地域の体制づくり」「気づき、見守り、繋げる」このあたりが民生委員として関

代表者会議【資料２－２】

係する部分。実際に受け持ち区域をまわっていて障がいのある方が困っていたとして、どこに相談を持ち込めばよいかわからない。明確にしてもらえるとありがたい。地域福祉課に総合相談担当もいるが、その方々もすべての分野においてプロというわけではなく適したところへつないでくれる役割だと認識している。

- ・現場で支援にあたっているとケース対応に追われてしまい、今回のように事例を振り返り対応を検証することが十分にできていないので、事例集のように形として残ることを意味は大きいと思う。対応困難ケースへの支援を考えるツールとしても役立てていきたい。また事例の傾向を見ても行政や包括支援センターと協働で対応をする事例がほとんどであり、連携の点でよりスムーズに支援できるような仕組みが考えられると良いと感じた。
- ・事例集についてはこれからも事例を足していき、この事例集をネットにアップロードするなどして支援者がアクセスし易くなると良いように思った。支援者が支援に困ったときに過去の事例から対応例を学べるように。
- ・提言の中に、支援者で事例を共有できるような仕組みを作るという取り組み案を入れてもよい。どこの相談支援事業所でも閲覧できるようにしたり、新人職員の研修会に活用する形もよい。
- ・相談員が不足している問題もある。例えば相談員を頼らなくても、適した相談先はどこかという程度の振り分けができるようなアプリやチャット。AI の活用なども考えられるところ。
- ・高齢の親への支援で介入が始まり障害のある息子に繋がるケースや、地域の民生委員から包括支援センターに相談が入り繋がりを持つケースなどがある。やはり相談窓口や支援の入口が分かり辛いという問題がある。色々なところへ連絡をしても求める回答が得られないこともある。「ここに相談すれば受け止めてもらえる」という窓口の設置が必要。
- ・実行可能な提言もそうだが、そこにばかりとらわれず、部会テーマを考えていくにあたって譲れない部分を提案として挙げるのも大切。
- ・地域生活支援拠点等整備進化プロジェクト（えぽプロ）での検討に部会協議の結果を取り入れてもらうのだとしたらスケジュールを意識しなくてはいけない。次回会議までに今回会議で上がった意見を反映した報告書(案)を作成し、事前にメールなどで共有したうえで意見交換ができると良い。
- ・地域生活拠点整備事業の分類で考えると、“相談”が一番最初。“体験の機会・場供”などは相談で話を受けた先の事。相談に関する提言が先頭に来てほしい。
- ・地域は避難行動要支援者名簿を通して当事者の存在を把握することができる。現状、その名簿の情報をどのように活用するかは各地域に任せられていて、進み方はまちまち。この部会での提言に、この事業との連携や各地域への普及等の取り組みを記載できると良いのではないかな。
- ・事例集をこの地域の支援者で活用することや職員育成に生かすことの障壁は何かあるのか。これからもデータを蓄積できればとても役立つように思うが。

代表者会議【資料２－２】

→個人情報の問題はあると思うが、それこそ地域生活支援拠点での事業として取り組む事で解決するところかもしれない。事業の枠組みがないと、どこまで共有されるかわからず事例を提供しづらかったり、わざわざ時間を割いて資料作成をするのが手間で敬遠されたりするところはあると思われる。

→基幹ナル瀬川氏) 基幹は人材育成と地域づくりの機能があり、困難ケースに対応する支援者のバックアップに取り組んでいる。事例検討会を開き共に学び合える場を設定することとしているが、今回意見が挙がっているようにこのような事例集の共有はぜひすべきと思う。支援者が困ったときの対応の一助にもなるだろう。

→事務局内部では、これらの事例の対応から緊急時の支援の流れについて傾向が見えるので、フローチャートを作成する案もあった。報告書としての活用と、事例集としての活用、両方を考えていけると良いか。

・柴田会長) この部会の中で「提言をしても施策に反映されない」という課題があったが、行政との協議の進め方については重要なところだと思う。国が示す協議会に対する考え方も変わってきている中で、部会の提案が代表者会議に上がり、計画に反映され予算化されるまで進むかどうかで、協議会の立ち位置も変わってくる。他の部会についても同様なので、引き続き幅広い意見を頂戴したいと考える。

・基幹ナル瀬川氏) この部会で抽出された課題にすべて取り組むというのは難しいと思うので、協議会内の他部会と共有しすみ分けてもよいのではないか。

・そもそも茅ヶ崎市での協議会は、地域生活支援拠点整備事業の「地域の体制づくり」に位置付けられている。この部会が地域生活支援拠点整備事業の一つの機能を担っているという整理になるのか。

→市池元氏) そうなる。また 第7期障害者保健福祉計画の中の「住まう」「すこやかに生きる」「生活する」「利用する」というポイントに、各部会それぞれが対応するように設置されており、計画と連動して機能している。

・事例集の作りについては、事例と提言が連動した方が理解しやすく感じる。見開きにしてはどうか。

・一つ一つに対してもそうだが、全体を通して提言がまとめられた方が良いのではないか。

・事例ページに提言も加えるとなると協議報告書と事例集は別物として作成するか。

→他分野からすると、何がネックになり課題が解決していないのかというのが読み取れることから、事例集であっても提言は残っていた方が良い。地域の課題として共有し、取り組みの企画にもつなげられる。

上記意見交換を踏まえ、8月ごろまでに事務局にて協議報告書・事例集を編集し、次回会議までにメールにて共有。それを受け第2回会議にて意見交換を行うことを

代表者会議【資料 2－2】

	<p>確認した。</p> <p>3. その他(情報提供など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鈴木部会員より部会テーマに関連するドキュメンタリー映像の情報提供(親亡き後、障がいのある我が子は？「老障介護」の現実と居場所を探し続ける家族を見つめたドキュメンタリー テレビ新広島 (TSS) (youtube.com))。 <p style="text-align: right;">以上。</p> <p>※会議資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・くらしの基盤強化部会 協議報告書兼「親亡き後問題・障がい版 8050 問題」関連事例集
課題・懸案事項	「部会協議報告書・親亡き後関連事例集」の作成について。
代表者会議への 検討課題	